

愛媛県公民館研究大会で受賞

昌農内公民館

10月21日(火)、西条市総合文化センターで、昌農内公民館が優良自治公民館として、県公連会長表彰を受ける栄誉をいただいた。県下16の優良自治公民館の代表として、関谷区長さんが表彰状を受け取られた。昌農内では、分館活動に中学生を取り込み十代の青少年活動の推進に力を入れているところから今回の表彰の対象に選ばれたと思われる。また、今後、公民館活動を運営するうえで勇気づけられる思いがした。

昌農内公民館では新しい試



▲表彰式の様子



▲表彰状を受け取る昌農内の関谷孝昭区長

みとして、区長さん提案の「どろんこ祭り」を本年実施した。翌日の分科会では、同じように田んぼでのどろんこ運動会の活動が話された。破傷風菌の怖さ、ジャンボタニシによる怪我、汚く不潔であること、泥まみれになることへの懸念など多数の意見があったという。しかし、参加する子どもたちは力一杯で、泥まみれに何の苦言もなく楽しんでいったという。

具体的な活動報告と困難を打開する実践発表は、大変有益であった。どの公民館とも苦心して地域にとけあいつつ、多様な活動がなされていることを実感した。模索を継続し

つつ、さらなる飛躍を思わせる話し合いや、失敗談であっても悠然と公開できる場を提供することの重要性を知った研究会であった。

学校週五日制のもとに、子どもたちの活動を地域に取り込む必要性が話し合われた。なかでも「学社融合」に果たす公民館の重要性を知ることになった。ただ、学校と社会の敷居の高さは、これからの活動の障害になるだろう。しかし、どのようにするか参考となる実践は、これから明らかにするだろうと予想できた。

最後に、子どもたちを大勢抱え込んでの活動だけを考えるのではなく、少数の子どもたちでも地域社会に取り込む活動の必要性を主張されていたのは、印象に残る内容であった。



ネパールの学校を訪ねて

岡田中学校 井手喜久美

昨年12月、岡田中学校人権委員が「ネパールの学校に文房具を送ろう。」と、全校生徒に呼びかけた。すると、各クラスから定規、コンパス、鉛筆などたくさんの方房具が集まった。今年の8月、私はその文房具を送った先の学校を訪問した。

山中にあるその中学校には電気がなく、曇りの日は真っ暗になる。窓ガラスなど当然

ない。6畳ほどの教室に40人以上の生徒が肩寄せ合うように座り、学ぶのである。黒板は壁に黒くペンキをぬっただけである。また、家に余裕がなく子どもも働かざるを得ないため、ずっと学校に来られない生徒もいる。決して恵まれた教育環境ではない。

しかし、子どもたちの目はみんな澄んでおり、生き生きしていた。教室で授業を見学させてもらったとき、数学の因数分解の問題を解くのに、全くネパール語のわからない

私にも、何人も教えてくださいと聞くのである。間違えても何度でも問題に取り組み、そこには一生懸命学ぼうとする姿があった。どの授業も子どもたちの目は、みんなとても真剣だった。

空き時間には、私のまわりに群がり、片言の英語で話しかけてきた。持ってきていた岡田中学校の授業風景の写真も興味深げに見ていた。

子どもたちは、家に帰ればみんな家の手伝いをする。山を越え片道2時間の道のりを歩いてくる生徒も何人もいる。2時間も早く来て、教室前で勉強している生徒もいる。

子どもたちは、送った文房具をととても大事に使ってくれていた。将来の夢をうれしうに話してくれた。

ネパールは経済的に豊かな国ではない。けれど、私の出会った子どもたちの目はとても輝いていた。とても柔らかく豊かな心を持っていた。